

Financial Section

6年間の
財務サマリー

60

連結
財務諸表

61

連結
貸借対照表

61

連結
損益計算書

63

連結
包括利益計算書

64

連結
株主資本等
変動計算書

65

連結
キャッシュ・フロー
計算書

66

連結
財務諸表注記

68

独立監査人の
監査報告書(訳文)

93

6年間の財務サマリー

積水化学工業株式会社及び連結子会社

百万円（別途記載のものを除く）

(年度)	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
業績推移						
売上高	858,514	915,492	965,090	1,032,431	1,110,851	1,112,748
営業損益	35,955	49,335	54,610	59,621	82,541	85,764
経常損益	31,076	48,292	54,158	60,670	83,310	87,978
当期純利益	11,627	23,574	28,116	30,174	41,190	52,995
包括利益	—	5,705	24,652	77,437	57,944	91,587
売上高営業利益率(%)	4.2	5.4	5.7	5.8	7.4	7.7
資産、負債及び資本						
総資産	787,261	790,189	827,103	901,564	961,009	968,011
純資産	351,706	350,045	363,299	433,228	473,555	535,292
自己資本比率(%)	43.4	43.0	42.5	46.4	47.5	53.3
流動比率(%)	120.4	126.0	123.5	131.1	127.4	139.8
固定比率(%)	129.7	120.9	121.4	110.3	102.1	97.2
有利子負債	133,085	124,508	127,188	115,320	94,010	63,120
有利子負債自己資本比率(%)	38.9	36.6	36.2	27.6	20.6	12.2
総資産回転率(回)	1.11	1.16	1.19	1.19	1.19	1.15
棚卸資産回転率(回)	7.56	8.14	7.71	7.57	7.50	7.09
有形固定資産回転率(回)	3.46	3.71	4.13	4.38	4.51	4.31
キャッシュ・フロー						
営業活動によるキャッシュ・フロー	74,983	64,197	66,652	71,016	97,720	67,760
投資活動によるキャッシュ・フロー	(55,496)	(46,051)	(70,727)	(31,133)	(60,914)	4,127
財務活動によるキャッシュ・フロー	(5,749)	(5,197)	(16,077)	(30,520)	(49,803)	(63,856)
フリーキャッシュ・フロー	15,126	12,602	(12,332)	30,650	24,915	58,810
資本的支出、減価償却費及び研究開発費						
資本的支出	44,049	25,269	33,076	36,842	41,827	46,993
減価償却費	34,525	34,530	35,102	34,895	34,376	31,203
研究開発費	24,010	24,694	25,611	25,894	27,720	29,452
研究開発費売上高比率(%)	2.80	2.70	2.65	2.51	2.50	2.65
1株当たりデータ						
1株当たり純資産(円)	651.08	650.83	682.46	810.76	897.18	1,033.49
1株当たり当期純利益(円)	22.13	44.92	53.96	58.53	80.13	104.73
1株当たり配当金(円)	10.00	13.00	15.00	18.00	23.00	27.00
配当性向(%)	45.2	28.9	27.8	30.8	28.7	25.8
その他のデータ						
自己資本当期純利益率(%)	3.5	6.9	8.1	7.8	9.4	10.9
総資産経常利益率(%)	4.0	6.1	6.7	7.0	8.9	9.1
EBITDA	70,480	83,865	89,712	94,516	116,918	116,967
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	15.2	19.8	20.7	21.7	33.2	51.7
株価収益率(倍)	28.65	14.49	13.31	17.63	13.39	14.89
従業員数(人)	19,761	19,770	20,855	22,202	23,017	23,886
従業員一人当たり売上高(万円)	4,346	4,631	4,751	4,796	4,913	4,744

自己資本比率＝自己資本／総資産

流動比率＝流動資産／流動負債

固定比率＝固定資産／自己資本

有利子負債自己資本比率＝有利子負債／自己資本

総資産回転率＝売上高／期中平均総資産

棚卸資産回転率＝売上高／期中平均棚卸資産

有形固定資産回転率＝売上高／期中平均有形固定資産

フリーキャッシュ・フロー＝営業活動CF＋投資活動CF－配当支払

研究開発費売上高比率＝研究開発費／売上高

自己資本当期純利益率＝当期純利益／期中平均自己資本

総資産経常利益率＝経常利益／期中平均総資産

EBITDA＝営業利益＋減価償却費

インタレスト・カバレッジ・レシオ＝

(営業利益＋受取利息・配当金)／支払利息・割引料

株価収益率＝年度末株価／一株当たり当期純利益

従業員一人当たり売上高＝売上高／(期初と期末従業員数の平均)

連結財務諸表

連結貸借対照表

積水化学工業株式会社及び連結子会社
2015年及び2014年3月31日現在

	百万円	
	2015	2014
資産の部		
流動資産：		
現金及び預金（注記 16 及び 18）	¥ 87,169	¥ 107,673
受取手形（注記 18）	40,026	39,643
売掛金（注記 18）	146,353	152,591
有価証券（注記 4 及び 18）	0	0
商品及び製品	61,922	54,209
分譲土地	22,382	21,716
仕掛品	40,990	47,730
原材料及び貯蔵品	32,309	32,690
前渡金	2,733	1,115
前払費用	2,964	3,030
繰延税金資産（注記 9）	14,718	17,243
短期貸付金	2,010	467
その他	15,707	19,296
貸倒引当金	(3,126)	(2,748)
流動資産合計	466,164	494,660
固定資産：		
有形固定資産（注記 5、6、14 及び 21）		
建物及び構築物（純額）	88,709	86,451
機械装置及び運搬具（純額）	75,503	68,461
土地	70,055	69,419
リース資産（純額）	9,894	9,045
建設仮勘定	12,370	13,133
その他（純額）	7,324	5,540
有形固定資産合計	263,857	252,051
無形固定資産（注記 6、14 及び 21）		
のれん	10,787	12,893
ソフトウェア	7,241	6,173
リース資産	264	325
その他	15,812	20,436
無形固定資産合計	34,106	39,828
投資その他の資産		
投資有価証券（注記 4 及び 18）	182,049	151,724
長期貸付金	715	967
長期前払費用	1,601	1,177
退職給付に係る資産（注記 8）	844	490
繰延税金資産（注記 9）	7,131	8,964
その他	12,305	12,222
貸倒引当金	(764)	(1,078)
投資その他の資産合計	203,883	174,468
固定資産合計	501,847	466,349
資産合計（注記 21）	¥ 968,011	¥ 961,009

連結財務諸表の注記を参照のこと。

	百万円	
	2015	2014
負債の部		
流動負債		
支払手形（注記 6 及び 18）	¥ 7,541	¥ 8,453
電子記録債務（注記 18）	6,886	6,520
買掛金（注記 6 及び 18）	121,544	133,861
短期借入金（注記 6 及び 18）	25,830	44,146
1年内償還予定の社債（注記 6 及び 18）	-	10,000
リース債務（注記 7）	3,169	2,907
未払費用	36,244	32,056
未払法人税等（注記 9）	13,184	18,286
繰延税金負債（注記 9）	44	371
賞与引当金	16,570	17,250
役員賞与引当金	258	261
完成工事補償引当金	1,161	1,132
前受金	43,204	57,365
その他	57,785	55,752
流動負債合計	333,426	388,365
固定負債		
社債（注記 6 及び 18）	10,000	10,000
長期借入金（注記 6 及び 18）	17,111	20,459
リース債務（注記 7）	7,009	6,496
繰延税金負債（注記 9）	10,591	4,923
退職給付に係る負債（注記 8）	48,637	51,100
その他	5,941	6,109
固定負債合計	99,291	99,089
負債合計	432,718	487,454
偶発債務（注記 12）		
純資産の部		
株主資本（注記 10）		
資本金	100,002	100,002
資本剰余金	109,234	109,234
利益剰余金	265,246	240,231
自己株式	(21,770)	(20,347)
株主資本合計	452,712	429,120
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	43,713	19,001
繰延ヘッジ損益	33	7
土地再評価差額金（注記 11）	301	261
為替換算調整勘定	16,417	6,959
退職給付に係る調整累計額（注記 8）	3,133	1,468
その他の包括利益累計額合計	63,599	27,698
新株予約権	414	267
少数株主持分	18,566	16,468
純資産合計	535,292	473,555
負債純資産合計	¥ 968,011	¥ 961,009

連結財務諸表の注記を参照のこと。

連結損益計算書

積水化学工業株式会社及び連結子会社
2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度

	百万円	
	2015	2014
売上高（注記 17 及び 21）	¥ 1,112,748	¥ 1,110,851
売上原価	775,130	774,753
売上総利益	337,617	336,097
販売費及び一般管理費（注記 13）	251,853	253,555
営業利益（注記 21）	85,764	82,541
営業外収益		
受取利息	936	1,029
受取配当金	4,100	3,094
持分法による投資利益	2,263	2,070
為替差益	7,395	3,273
雑収入	3,788	4,364
営業外収益合計	18,484	13,832
営業外費用		
支払利息	1,430	2,266
売上割引	324	345
特定外壁点検保全費用	3,268	89
事業再編費用	2,248	1,087
雑支出	8,998	9,276
営業外費用合計	16,270	13,064
経常利益	87,978	83,310
特別利益		
投資有価証券売却益	5,084	—
特別利益合計	5,084	—
特別損失		
減損損失（注記 14 及び 21）	7,123	9,642
固定資産除売却損	1,707	1,241
特別損失合計	8,830	10,884
税金等調整前当期純利益	84,232	72,426
法人税等（注記 9）		
法人税、住民税及び事業税	27,938	29,664
法人税等調整額	2,005	393
法人税等合計	29,944	30,058
少数株主損益調整前当期純利益	54,287	42,368
少数株主利益	1,292	1,177
当期純利益	¥ 52,995	¥ 41,190

連結財務諸表の注記を参照のこと。

連結包括利益計算書

積水化学工業株式会社及び連結子会社
2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度

	百万円	
	2015	2014
少数株主損益調整前当期純利益	¥ 54,287	¥ 42,368
その他の包括利益（注記 15）		
その他有価証券評価差額金	23,793	954
繰延ヘッジ損益	26	(40)
為替換算調整勘定	10,842	14,389
退職給付に係る調整額	1,395	—
持分法適用会社に対する持分相当額	1,241	272
その他の包括利益合計	37,299	15,576
包括利益	¥ 91,587	¥ 57,944
内訳：		
親会社株主に係る包括利益	¥ 88,895	¥ 55,778
少数株主持分に係る包括利益	2,691	2,166

連結財務諸表の注記を参照のこと。

連結株主資本等変動計算書

積水化学工業株式会社及び連結子会社
2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度

百万円

	株主資本				その他の包括利益累計額						新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余 金	利益剰余 金	自己株式	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘ ッジ 損益	土地再評 価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る調 整累計額				
2013年4月1日現在	¥100,002	¥109,234	¥209,280	¥(11,577)	¥ 17,778	¥ 47	¥ 260	¥ (6,443)	¥ -	¥ 306	¥ 14,339	¥ 433,228	
剰余金の配当	-	-	(10,342)	-	-	-	-	-	-	-	-	(10,342)	
当期純利益	-	-	41,190	-	-	-	-	-	-	-	-	41,190	
連結子会社増加に伴う 剰余金増加高	-	-	134	-	-	-	-	-	-	-	-	134	
自己株式の取得	-	-	-	(10,038)	-	-	-	-	-	-	-	(10,038)	
自己株式の処分	-	(30)	-	1,268	-	-	-	-	-	-	-	1,238	
利益剰余金から資本剰 余金への振替	-	30	(30)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動 額(純額)	-	-	-	-	1,223	(40)	1	13,403	1,468	(38)	2,128	18,146	
連結会計年度中の変動 額合計	-	-	30,951	(8,770)	1,223	(40)	1	13,403	1,468	(38)	2,128	40,326	
2014年4月1日現在	¥100,002	¥109,234	¥240,231	¥(20,347)	¥ 19,001	¥ 7	¥ 261	¥ 6,959	¥ 1,468	¥ 267	¥ 16,468	¥ 473,555	
会計方針の変更による 累積的影響額	-	-	(2,389)	-	-	-	-	-	-	-	-	(2,389)	
会計方針の変更を反映 した2014年4月1日 現在残高	100,002	109,234	237,842	(20,347)	19,001	7	261	6,959	1,468	267	16,468	471,165	
剰余金の配当	-	-	(12,745)	-	-	-	-	-	-	-	-	(12,745)	
当期純利益	-	-	52,995	-	-	-	-	-	-	-	-	52,995	
連結子会社増加に伴う 剰余金増加高	-	-	37	-	-	-	-	-	-	-	-	37	
自己株式の消却	-	(12,615)	-	12,615	-	-	-	-	-	-	-	-	
自己株式の取得	-	-	-	(15,024)	-	-	-	-	-	-	-	(15,024)	
自己株式の処分	-	(165)	-	985	-	-	-	-	-	-	-	819	
利益剰余金から資本剰 余金への振替	-	12,781	(12,781)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
連結子会社の決算期の 変更に伴う増減	-	-	(100)	-	-	-	-	-	-	-	-	(100)	
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動 額(純額)	-	-	-	-	24,711	26	39	9,458	1,665	146	2,097	38,145	
連結会計年度中の変動 額合計	-	-	27,405	(1,422)	24,711	26	39	9,458	1,665	146	2,097	64,127	
2015年3月31日現在	¥100,002	¥109,234	¥265,246	¥(21,770)	¥ 43,713	¥ 33	¥ 301	¥ 16,417	¥ 3,133	¥ 414	¥ 18,566	¥ 535,292	

連結財務諸表の注記を参照のこと。

連結キャッシュ・フロー計算書

積水化学工業株式会社及び連結子会社
2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度

	百万円	
	2015	2014
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	¥ 84,232	¥ 72,426
減価償却費	31,203	34,376
のれん償却額	2,348	2,957
減損損失	7,123	9,642
固定資産除却損	1,190	1,125
固定資産売却損益 (()は益)	516	116
退職給付に係る負債の増減額 (()は減少)	(3,165)	(3,326)
投資有価証券売却損益 (()は益)	(5,084)	-
受取利息及び受取配当金	(5,037)	(4,124)
支払利息及び売上割引	1,754	2,611
持分法による投資損益 (()は益)	(2,263)	(2,070)
売上債権の増減額 (()は増加)	12,108	(13,206)
たな卸資産の増減額 (()は増加)	1,432	(12,424)
仕入債務の増減額 (()は減少)	(14,552)	6,139
前受金の増減額 (()は減少)	(14,249)	8,156
その他	(24)	8,886
小計	97,534	111,284
利息及び配当金の受取額	5,650	4,536
利息の支払額	(1,886)	(2,626)
法人税等の還付額	-	2,806
法人税等の支払額	(33,538)	(18,280)
営業活動によるキャッシュ・フロー	67,760	97,720
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	(34,602)	(28,580)
有形固定資産の売却による収入	835	856
定期預金の預入による支出	(27,012)	(71,109)
定期預金の払戻による収入	59,028	47,228
投資有価証券の取得による支出	(104)	(315)
投資有価証券の売却及び償還による収入	16,789	230
子会社株式の取得による支出	(5,878)	(4,346)
無形固定資産の取得による支出	(5,517)	(3,342)
短期貸付金の増減額 (()は増加)	(1,294)	19
その他	1,885	(1,554)
投資活動によるキャッシュ・フロー	¥ 4,127	¥ (60,914)

連結キャッシュ・フロー計算書（続き）

財務活動によるキャッシュ・フロー

短期借入金の純増減額（（）は減少）	¥ (6,150)	¥ (115)
ファイナンス・リース債務の返済による支出	(3,822)	(3,421)
長期借入れによる収入	4,396	4,981
長期借入金の返済による支出	(21,203)	(31,409)
社債の償還による支出	(10,000)	-
少数株主からの払込みによる収入	-	994
配当金の支払額	(12,743)	(10,351)
少数株主への配当金の支払額	(334)	(1,538)
自己株式の取得による支出	(15,024)	(10,038)
その他	1,026	1,095

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フロー	(63,856)	(49,803)
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,448	3,071
現金及び現金同等物の増減額（（）は減少）	11,480	(9,926)
現金及び現金同等物の期首残高	51,248	58,631
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	52	2,543
現金及び現金同等物の期末残高（注記 16）	¥ 62,780	¥ 51,248

連結財務諸表の注記を参照のこと。

連結財務諸表注記

1. 連結財務諸表作成の基本方針

積水化学工業株式会社（以下「当社」という）及び、国内連結子会社は、日本国内において一般に公正妥当と認められる会計方針に従って会計帳簿を保管及び作成しています。在外連結子会社については、その子会社の居住する国において一般に公正妥当と認められる会計方針に従って会計帳簿を保管及び作成しています。

添付の連結財務諸表は、日本国内において一般に公正妥当と認められる会計方針に従って作成されており、国際財務報告基準において要求される会計処理及び開示に関していくつかの点で異なっています。また、添付の連結財務諸表は日本の金融商品取引法に基づいて作成された連結財務諸表より作成されています。

2. 重要な会計方針の概要

(1) 連結の方針

2015年3月31日時点において、当社は212社の子会社を有しています。2015年3月31日に終了した連結会計年度の連結財務諸表は、当社と連結子会社166社の財務諸表を連結しています。

2015年3月31日時点における他の子会社46社については、当該子会社の資産、剰余金、純売上高、及び純利益（損失）額の合計が、連結財務諸表全体から見て重要でないと考えられるため、当該子会社の財務諸表は連結していません。

海外連結子会社18社の決算日は12月31日です。当該子会社については、3月31日に仮決算を行い連結しています。なお、Sekisui-SCG Industry Co., Ltd.については、当連結会計年度より、連結決算日である3月31日に仮決算を行い連結する方法に変更しています。これに伴い、2015年1月1日から3月31日までの3ヶ月間に係る同社の損益については利益剰余金に直接計上しています。

当社及び連結子会社内での内部取引により生じた未実現利益及び未実現損失は全て消去されており、少数株主に帰すべき部分については、少数株主持分に計上されています。

当社は2015年3月31日時点で46社の非連結子会社と17社の関連会社を有しています。このうち、連結財務諸表作成のため、積水化成工業株式会社、積水樹脂株式会社を含む重要な関連会社を2015年3月31日時点で8社について、持分法を適用しています。他の非連結子会社及び関連会社については、重要性が乏しいため、持分法を採用していません。

(2) 外貨建取引

外貨建取引から生じる収益及び費用項目につきましては、各取引日・発生日の為替相場により日本円に換算しています。換算の結果生じた為替差損益につきましては、当期の損益に計上しています。

全ての外貨建金銭資産・負債は、決算日の為替相場により円換算され、換算より発生する換算差額は損益として処理されています。

在外子会社の貸借対照表項目は純資産の部の項目を除き、決算日の為替相場により円換算しています。純資産の部の項目は発生日の為替相場により円換算しています。また在外子会社の収益及び費用項目については会計期間を通じて年間平均相場で円換算しています。外貨建財務諸表の換算の結果発生する換算差額は損益には計上されず、為替換算調整勘定として純資産の部に表示されています。

(3) 現金及び現金同等物

連結キャッシュ・フロー計算書の作成目的のため、現金及び現金同等物には手許現金、要求払預金及び取得日から3ヵ月以内に満期が到来する流動性の高い投資が含まれています。

(4) 棚卸資産

主として平均法による原価法により評価しています。貸借対照表価格は収益の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定しています。

(5) 有価証券

非連結子会社及び関連会社以外の有価証券は売買目的有価証券、満期保有目的の債券、及びその他有価証券の3項目に分類されます。売買目的有価証券は公正価値で評価されます。売買目的有価証券に係る評価差額（未実現及び実現損益を含む）は損益として処理されます。満期保有目的の債券は償却原価で評価されます。その他有価証券に分類された市場性のある有価証券は公正価値で評価され、未実現損益は税効果適用後の金額でその他の包括利益累計額に区分表示されます。売却原価は移動平均法により算定されず。その他の有価証券に分類された市場性のない有価証券は、移動平均法による原価法により評価されず。

- (6) 有形固定資産及び減価償却（リース資産は除く）
有形固定資産の減価償却費は、各資産別の見積耐用年数に基づく定額法で計算されています。
- 耐用年数の範囲は、建物及び構築物につきましては、主に、3年乃至60年、機械装置及び運搬具につきましては、主に、4年乃至17年です。
- (7) リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却費は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法で計算されています。
- (8) のれん
のれんにつきましては、発生日以降5年間で均等償却しています。その効果の発現する期間の見積りが可能な場合には、その見積り年数で均等償却しています。しかしながら金額が僅少なものについては一括償却しています。
- (9) 貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。
- (10) 賞与引当金
従業員賞与の支給に充てるため、主に、期末直前支給額を基礎とした見積額を計上しています。
- (11) 退職給付に係る会計処理の方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっています。
- 過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しています。
- 数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しています。
- 一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額等を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。
- 連結子会社において役員退職慰労金の支出に充てるため、各社の内規に基づき計算された金額を退職給付に係る負債に含めて計上しています。
- (12) 重要な収益及び費用の計上基準
完成工事高及び完成工事原価につきましては、成果の確実性が認められる工事は工事進行基準、それ以外の工事は工事完成基準により計上しています。
- (13) 研究開発費及びコンピュータ・ソフトウェア（リース資産は除く）
研究開発費は、発生時に費用処理しています。自社利用のコンピュータ・ソフトウェアに関する支出は、発生時に費用処理しています。ただし当該支出が将来の収益に貢献するか又は経費削減に貢献する場合は、資産計上され、当該コンピュータ・ソフトウェアは定額法で社内における利用可能期間（主として5年）で償却しています。
- (14) 法人税等
法人税等は、課税所得に基づき計算され、発生した金額が費用計上されます。課税所得上計算された利益と、財務報告上認識された利益との間に期間的ずれが生じることから、一時差異が発生します。当社は一時差異の影響を税効果として、連結財務諸表上で認識しています。
- 当社及び一部の国内連結子会社は、2013年3月31日に終了した連結会計年度より連結納税制度を適用しています。
- (15) 消費税等
消費税等の適用を受ける取引については、税抜方式によっています。有形固定資産の購入により発生した消費税法に基づく控除対象外消費税等は、発生時に費用処理しています。
- (16) デリバティブ取引及びヘッジ取引
当社及び一部の連結子会社は、外国為替相場及び金利の不利な変動から生じるリスクを管理するために

種々のデリバティブ取引を行っています。デリバティブ金融商品は公正価値で評価され、未実現損益の変動は利益又は損失として計上されています。ただし、繰延ヘッジ会計の要件を満たす場合には、当該未実現損益は税効果適用後の金額でその他の包括利益累計額の一項目として表示されています。

なお、金利スワップのうち金利スワップの特例処理の要件を満たすものについては、金利スワップを時価評価せず、その金額の受払の純額を当該資産又は負債に係る利息に加減しています。

(17) 未適用の会計基準

2013年9月13日、企業会計基準委員会（ASBJ）は、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号）、「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号）、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号）、「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号）及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号）を公表しました。

当該会計基準は、「子会社株式の追加取得等において、支配が継続している場合の子会社に対する親会社の持分変動の取扱い」、「取得関連費用の取扱い」、「当期純利益の表示及び少数株主持分から非支配株主持分への変更」並びに「暫定的な会計処理の確定の取扱い」等を中心に改正されました。

当該会計基準及び適用指針については、2015年4月1日より適用する予定です。なお、暫定的な会計処理の確定の取扱いについては、2015年4月1日以後実施される企業結合から適用する予定です。

当該会計基準の改正による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中です。

3. 会計方針の変更

（退職給付に関する会計基準等の適用）

当社および国内子会社は、「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 2012年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 2015年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当連結会計年度末より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を変更しました。

退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当連結会計年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う累積的影響額を利益剰余金に加減しています。この結果、当連結会計年度の期首の退職給付に係る負債が3,397百万円増加し、利益剰余金が2,389百万円減少しています。また、この変更による当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微です。

なお、1株当たり情報に与える影響は、「20. 1株当たり金額」注記を参照下さい。

（減価償却方法の変更）

従来、当社および国内連結子会社は、建物（建物付属設備を除く）以外のその他の有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却方法については定率法を採用していましたが、当連結会計年度より定額法に変更しています。

当社は「100年経っても存在感のある企業グループを目指す」という基本方針のもと、当連結会計年度を開始年度とする新たな中期経営計画「SHINKA! -Advance 2016」において各カンパニーの諸施策を策定し、これを契機に主要な設備について今後の稼働状況の検討を進めました。

住宅カンパニーでは、人口減少により注文住宅市場が縮小するなか、省エネ機器標準装備による差別化や分譲・集合住宅市場への強化施策等により、今後、販売戸数が安定的に推移し、国内生産設備の稼働が安定化するものと見込まれます。

環境・ライフラインカンパニーでは、国内需要が減少するなか、調査・診断、設計、製品販売、施工、維持管理までを含めたバリューチェーンビジネスへの変革を推進することで競争力を強化し、更には事業譲受による管材分野におけるシェア拡大、生産拠点の再編等の施策とも相まって安定した販売量の確保が可能となり、今後国内生産設備の稼働が安定化するものと見込まれます。

高機能プラスチックカンパニーでは、安定的な受注を見込める高付加価値製品へのシフトおよび国内から海外への生産移管といった最適アロケーションの基盤が整備されたこと等により、今後国内生産設備の稼働が安定化するものと見込まれます。

以上の理由により、当社および国内連結子会社の有形固定資産について、従来の定率法から、使用期間にわたり平均的に費用配分する定額法に変更することが今後の設備の利用実態をより適切に反映させることができるものと判断しました。

なお、当該変更により、定額法を採用している海外子会社との会計方針の統一が図られます。この変更により、従来の方法に比べて、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ4,747百万円増加しています。

4. 有価証券

(1) 2015年及び2014年3月31日現在の満期保有目的の債券は下記の通りです。

	百万円		
	2015		
	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
その他	¥ 11	¥ 11	¥ -
合計	¥ 11	¥ 11	¥ -

	百万円		
	2014		
	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
その他	¥ 9	¥ 9	¥ -
合計	¥ 9	¥ 9	¥ -

(2) 2015年及び2014年3月31日現在のその他有価証券で時価のあるものは下記の通りです。

	百万円			
	2015			
	取得原価	連結貸借対照表 計上額	未実現評価益	未実現評価損
株式(連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの)	¥ 72,857	¥ 133,885	¥61,028	¥ -
株式(連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの)	160	152	-	(7)
合計	¥ 73,017	¥134,038	¥61,028	¥ (7)

	百万円			
	2014			
	取得原価	連結貸借対照表 計上額	未実現評価益	未実現評価損
株式(連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの)	¥ 81,297	¥ 108,957	¥27,660	¥ -
株式(連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの)	2,021	1,856	-	(165)
債券	20	20	-	-
合計	¥ 83,339	¥ 110,834	¥27,660	¥ (165)

2015年及び2014年3月31日現在の連結貸借対照表に計上されている非上場株式1,902百万円及び1,967百万円については、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

- (3) 2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度に売却したその他有価証券の売却受取額、売却益及び売却損は下記の通りです。

	百万円	
	2015	2014
売却受取額	¥ 15,412	¥ 219
売却益	5,084	33
売却損	0	—

5. 減価償却累計額

有形固定資産につきましては減価償却費累計額控除後の金額を連結貸借対照表に表示しております。2015年及び2014年3月31日における減価償却累計額はそれぞれ527,840百万円及び557,953百万円です。

6. 短期借入金、社債及び長期借入金

- (1) 短期借入金
2015年及び2014年3月31日現在における短期借入金の平均金利はそれぞれ1.57%、2.16%です。
- (2) 2015年及び2014年3月31日現在における社債は下記の通りです。

	百万円	
	2015	2014
社債（利率:1.18%、償還期日:2014年7月）	¥ —	¥ 10,000
社債（利率:0.60%、償還期日:2016年6月）	10,000	10,000
	10,000	20,000
1年以内償還予定額	—	(10,000)
合計	¥ 10,000	¥ 10,000

- (3) 2015年及び2014年3月31日現在における長期借入金は下記の通りです。

	百万円	
	2015	2014
担保付借入金	¥ 947	¥ 768
無担保借入金	23,571	40,595
	24,519	41,363
一年以内返済予定額	(7,407)	(20,904)
合計	¥ 17,111	¥ 20,459

日本国内における取引慣行により、実質的に全ての銀行借入金に際して（短期借入金も含む）、銀行と以下のような銀行取引約定書が締結されています。即ち、当該銀行から要求があれば、借入金に関して、当社又は関係する連結子会社は担保を提供し、あるいは保証人を立てる義務を負っています（追加の担保の提供又は追加的に保証人を立てる義務を含む）。この約定書によると提供された担保は当該銀行からの現在の借入れ又は将来の借入れに対しても使用されるものとされています。更に、この約定書によると、債務の期日が到来した場合、又は、債務不履行により期日前に弁済義務が生じた場合には、当該銀行は、当該銀行に対する債務と当該銀行に預けられた預金とを相殺する権利を有しています。

2015年3月31日現在の社債及び長期借入金のうち、2015年4月1日以降の各年度別の返済予定額は下記の通りです。

3月31日に終了する各年度	百万円
2016年	¥ 7,407
2017年	8,902
2018年	4,673
2019年	3,533
2020年	0
2021年以降	1

- (4) 2015年及び2014年3月31日現在において、担保として提供している資産及び担保付債務は下記の通りです。
担保提供資産

	百万円	
	2015	2014
建物及び構築物—帳簿価額	¥ 4,540	¥ 4,492
機械装置	264	341
土地	5,438	5,788
無形固定資産	291	683
その他	1,673	2,611
合計	¥ 12,209	¥ 13,917

担保付債務

	百万円	
	2015	2014
支払手形	¥ 73	¥ 12
買掛金	1,008	1,301
短期借入金	5,367	2,436
長期借入金	947	768
合計	¥ 7,397	¥ 4,518

- (5) 運転資金のより効率的かつ機動的な調達を行うために当社は特定の金融機関との間でコミットメントライン契約を締結しています。当該契約に基づく2015年及び2014年3月31日における借入金実行残高は下記通りです。

	百万円	
	2015	2014
コミットメントラインの総額	¥10,000	¥10,000
借入実行残高	—	—
差引額	¥10,000	¥10,000

7. リース債務

2015年3月31日現在のリース債務のうち、2015年4月1日以降の各年度別の返済予定額は下記の通りです。

3月31日に終了する各年度	百万円
2016年	¥ 3,169
2017年	2,569
2018年	1,849
2019年	1,227
2020年	628
2021年以降	736

8. 退職給付

当社及び国内連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を設けています。積立型制度である確定給付企業年金制度では、主として給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給しています。非積立金制度である退職一時金制度では、主として退職時まで取得したポイントを基準として一時金を支給しています。

一部の海外連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、確定給付型制度及び確定拠出型制度を設けています。なお、一部の連結子会社が有する確定給付企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しています。また、一部の連結子会社は、複数事業主制度の企業年金制度に加入しており、このうち、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができない制度については、確定拠出制度と同様に会計処理しています。

確定給付制度

- (1) 2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度に係る確定給付債務の調整については以下の通りです。
(簡便法を適用した制度を除く。)

	百万円	
	2015	2014
退職給付債務の期首残高	¥ 133,002	¥ 131,436
会計方針変更による累積的影響額	3,397	—
会計方針の変更を反映した期首残高	136,399	131,436
勤務費用	5,758	4,682
利息費用	1,493	2,312
数理計算上の差異の発生額	3,798	(661)
退職給付の支払額	(6,873)	(6,331)
過去勤務費用の発生額	28	(49)
その他	(5,179)	1,614
退職給付債務の期末残高	¥ 135,425	¥ 133,002

(注) 「その他」の主な内容は清算に伴う取り崩し及び為替換算調整です。

- (2) 2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度に係る年金資産の調整については以下の通りです。
(簡便法を適用した制度を除く。)

	百万円	
	2015	2014
年金資産の期首残高	¥ 90,352	¥ 79,957
期待運用収益	2,303	2,717
数理計算上の差異の発生額	5,869	4,032
事業主からの拠出額	5,597	6,805
退職給付の支払額	(4,844)	(4,523)
その他	(3,621)	1,362
年金資産の期末残高	¥ 95,657	¥ 90,352

(注) 「その他」の主な内容は清算に伴う取り崩し及び為替換算調整です。

- (3) 2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度における、簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の調整については以下の通りです。

	百万円	
	2015	2014
退職給付に係る負債の期首残高	¥ 6,676	¥ 7,034
退職給付費用	2,630	2,519
退職給付の支払額	(361)	(603)
制度への拠出額	(2,169)	(2,273)
退職給付に係る負債の期末残高	¥ 6,776	¥ 6,676

(4) 連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債と退職給付債務及び年金資産との残高

	百万円	
	2015	2014
積立型制度の退職給付債務	¥ 113,181	¥ 112,004
年金資産	(100,970)	(94,843)
	12,211	17,160
非積立型制度の退職給付債務	34,333	32,164
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	46,545	49,325
退職給付に係る負債	47,389	49,815
退職給付に係る資産	844	490
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	¥ 46,545	¥ 49,325

(注) 簡便法を適用した制度を含む。

(5) 2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度に係る退職給付費用の内訳項目は以下の通りです。

	百万円	
	2015	2014
勤務費用	¥ 5,758	¥ 4,682
利息費用	1,493	2,312
期待運用収益	(2,303)	(2,717)
数理計算上の差異の費用処理額	(1,519)	1,089
過去勤務費用の費用処理額	117	(7)
確定給付年金制度の清算に伴う損益	448	—
簡便法で計算した退職給付費用	2,630	2,465
確定給付制度に係る退職給付費用	¥ 6,626	¥ 7,823

(6) 退職給付に係る調整額

2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度において、退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は以下の通りです。

	百万円	
	2015	2014
過去勤務費用	¥ (79)	¥ —
数理計算上の差異	(1,456)	—
合計	¥ (1,536)	¥ —

(7) 退職給付に係る調整累計額

2015年及び2014年3月31日現在、退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は以下の通りです。

	百万円	
	2015	2014
未認識過去勤務費用	¥ 93	¥ 173
未認識数理計算上の差異	(4,054)	(2,598)
合計	¥ (3,960)	¥ (2,424)

(8) 2015年及び2014年3月31日現在、年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は以下の通りです。

	2015	2014
債券	45%	39%
株式	21%	33%
生保一般勘定	20%	17%
現金及び預金	1%	4%
その他	13%	7%
合計	100%	100%

年金資産の期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しています。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

	2015	2014
割引率	0.7—1.3%	1.6%
長期期待運用収益率	1.5—2.5%	1.0—3.5%
予想昇給率	2.9%	2.9%

複数事業主制度

2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度に係る確定拠出制度と同様に会計処理する複数事業主制度の企業年金制度への要拠出額は、それぞれ1,881百万円及び1,857百万円です。

(1) 2015年及び2014年3月31日現在、複数事業主制度の直近の積立状況は以下の通りです。

	百万円	
	2015	2014
年金資産の額	¥ 104,427	¥ 95,024
年金財政計算上の数理債務の額	115,315	107,328
差引額	¥ (10,887)	¥ (12,303)

(2) 2015年及び2014年3月31日現在、複数事業主制度に占める当社グループの年金財政計算上の給付債務の割合はそれぞれ約20%です。

(3) 補足説明

上記(1)及び(2)は入手可能な最新の情報(前連結会計年度は2014年3月31日現在、当連結会計年度は2015年3月31日現在)に基づいています。

年金財政上の繰越不足金は、特別掛金等により処理されます。

なお、上記(2)は当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

確定拠出制度

当社及び一部の連結子会社は、確定拠出制度を設けていますが、その要拠出額は軽微です。

9. 法人税等

当社及び国内連結子会社の法人税等は法人税、住民税及び事業税から構成されています。2015年及び2014年3月31日に終了した各年度の法定実効税率は、それぞれ約35.4%及び約37.8%です。

2015年3月31日に終了した連結会計年度の法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しています。

2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度の法定実効税率と連結損益計算書上の実際の法人税等の負担率との間の差異の内訳は下記の通りです。

	2014
法定実効税率	37.8%
税効果を計上していない連結子会社の一時差異	3.9
税効果を伴わない連結手続上生じた一時差異	3.4
税額控除	(2.5)
在外子会社の適用税率の差異	(2.3)
その他	1.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	41.5%

繰延税金とは財務諸表上の資産及び負債の帳簿価額と課税所得計算上の資産及び負債の金額の差異である一時差異の税効果を財務諸表に反映させるものです。2015年及び2014年3月31日現在の当社及び連結子会社の主な繰延税金資産及び繰延税金負債の内訳は下記の通りです。

	百万円	
	2015	2014
繰延税金資産：		
退職給付に係る負債	¥ 14,433	¥ 17,245
未実現利益	6,156	6,819
賞与引当金	5,333	6,042
投資有価証券評価損	3,857	4,252
減損損失	2,018	2,183
税務上の繰越欠損金	1,087	1,525
未払事業税	1,112	1,323
その他	14,405	10,369
評価性引当額	(4,264)	(4,447)
繰延税金資産合計	44,140	45,314
繰延税金負債：		
その他有価証券評価差額金	(19,204)	(9,475)
固定資産加速度償却	(4,075)	(3,793)
資本連結に係る投資差額（税効果適用前）	(3,152)	(3,483)
関係会社株式評価差額	(2,732)	(3,303)
固定資産圧縮積立金	(2,723)	(2,811)
貸倒引当金の修正	-	(12)
その他	(1,038)	(1,521)
繰延税金負債合計	(32,927)	(24,401)
繰延税金資産の純額	¥ 11,213	¥ 20,913

「所得税法等の一部を改正する法律」（2015年法律第9号）及び「地方税法等の一部を改正する法律」（2015年法律第2号）が2015年3月31日に公布されました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.4%から2015年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については32.9%に、2016年4月1日以降に解消が見込まれる一時差異については32.1%となります。この税率変更により、繰延税金負債の金額（繰延税金資産の金額を控除した金額）が142百万円減少し、法人税等調整額が2,030百万円、その他有価証券評価差額金が1,959百万円、退職給付に係る調整累計額が212百万円、それぞれ増加しています。

10. 株主資本

日本の会社法では、資本剰余金の分配（資本準備金を除く）および利益剰余金の分配（利益準備金を除く）として想定される金額の10%を、資本準備金と利益準備金の合計が資本金勘定の25%に達するまでの間、資本準備金あるいは利益準備金にそれぞれ振替えることを規定しています。また、会社法は株主総会又は一定の要件を満たせば取締役会の決議によりいつでも剰余金を分配することができると規定しています。

利益剰余金の中には会社法に基づいて積立てられた利益準備金が含まれています。当社の利益準備金は2015年及び2014年3月31日現在10,363百万円です。

ストック・オプション

会社法の規定に基づいて、当社の取締役及び特定の従業員並びに一部の子会社及び関連会社の代表取締役、特定の取締役及び従業員に対してストック・オプションを付与することが2009年6月26日、2010年6月29日、2011年6月29日、2012年6月27日、2013年6月26日及び2014年6月26日に開催された株主総会において承認されました。

上記ストック・オプションの概要（2015年3月31日現在）は下記の通りです。

	ストック・オプション (株式数)	行使価格	権利行使期間
2009年ストック・オプション	1,205,000	¥ 579	2011年7月1日から 2014年6月30日まで
2010年ストック・オプション	1,195,000	595	2012年7月1日から 2015年6月30日まで
2011年ストック・オプション	1,230,000	739	2013年7月1日から 2016年6月30日まで
2012年ストック・オプション	1,205,000	742	2014年7月1日から 2017年6月30日まで
2013年ストック・オプション	1,195,000	1,136	2015年7月1日から 2018年6月30日まで
2014年ストック・オプション	1,260,000	1,276	2016年7月1日から 2019年6月30日まで

ストック・オプションの概要は下記の通りです。

	2009年 ストック・ オプション	2010年 ストック・ オプション	2011年 ストック・ オプション	2012年 ストック・ オプション	2013年 ストック・ オプション	2014年 ストック・ オプション
ストック・オプションの株式数						
2013年3月31日 現在	587,000	745,000	1,220,000	1,200,000	—	—
付与	—	—	—	—	1,195,000	—
失効	—	—	—	—	—	—
権利行使	395,000	365,000	455,000	—	—	—
2014年3月31日 現在	192,000	380,000	765,000	1,200,000	1,195,000	—
付与	—	—	—	—	—	1,260,000
失効	80,000	—	—	—	10,000	10,000
権利行使	112,000	183,000	252,000	521,000	—	—
2015年3月31日 現在	—	197,000	513,000	679,000	1,185,000	1,250,000
付与日における公正な評価単価（円）	¥ 97	¥ 92	¥ 67	¥ 61	¥ 238	¥ 173

発行済み株式及び自己株式

2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度における発行済み株式及び自己株式の概要は下記の通りです。

株式数				
2015				
	2014年4月1日	増加分	減少分	2015年3月31日
発行済み株式	532,507,285	—	12,000,000	520,507,285
自己株式	23,337,707	10,652,420	13,063,708	20,926,419

株式数				
2014				
	2013年4月1日	増加分	減少分	2014年3月31日
発行済み株式	532,507,285	—	—	532,507,285
自己株式	16,223,314	8,749,431	1,635,038	23,337,707

11. 土地再評価

当社の持分法適用会社である積水化成工業株式会社は、土地の再評価に関する法律及び当該法律の一部改正に基づき、その保有する事業用土地の再評価を実施しました。この再評価の結果、当社は2015年及び2014年3月31日現在の連結貸借対照表において、土地の再評価による未実現利益のうち当社の持分に相当する額301百万円及び261百万円を土地再評価差額金としてその他の包括利益累計額に計上しています。

12. 偶発債務

2015年及び2014年3月31日現在の偶発債務は下記の通りです。

	百万円	
	2015	2014
保証債務		
住宅購入顧客の住宅ローン	¥ 26,386	¥ 26,796
従業員の住宅ローン	206	271
非連結子会社の借入債務	170	170

	百万円	
	2015	2014
受取手形裏書譲渡高	¥ 401	¥ 588
受取手形割引高	0	—

13. 研究開発費

2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度における販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費は下記の通りです。

	百万円	
	2015	2014
研究開発費	¥ 29,452	¥ 27,720

14. 減損会計

当社グループは、他の資産又は資産グループから概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位によって（ただし遊休資産については個別物件ごとに）資産をグルーピングしています。

2015年3月31日に終了した連結会計年度において、米国における検査薬事業を取得した際に計上した無形固定資産について、事業譲受時に検討した事業計画において想定した利益が見込めなくなったことにより、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（2,296百万円）として特別損失に計上しました。なお、回収可能価額を使用価値により算定しており、将来キャッシュ・フローを11%で割り引いて算定しています。

また、IT分野事業を取得した際に計上した無形固定資産について、株式取得時に検討した事業計画において想定した利益が見込めなくなったことにより、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（2,187百万円）として特別損失に計上しました。なお、回収可能価額を使用価値により算定しており、将来キャッシュ・フローを10%で割り引いて算定しています。

また、生産体制の再構築に伴い将来の使用が見込まれなくなった資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（1,041百万円）として特別損失に計上しました。その内訳は、建物951百万円及び構築物89百万円です。なお、回収可能価額を使用価値により算定していますが、将来キャッシュ・フローが見込まれなくなった為、その全額を減損処理しています。

2014年3月31日に終了した連結会計年度において、IT分野事業を取得した際に計上したのれんについて、株式取得時に検討した事業計画において想定した利益が見込めなくなったことにより、2014年3月31日に終了した連結会計年度において、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（5,335百万円）として特別損失に計上しました。なお、回収可能価額を使用価値により算定しており、将来キャッシュ・フローを7%～10%で割り引いて算定し、のれん残高の全額を減損処理しています。

また、米国における検査薬事業を取得した際に計上した無形固定資産について、事業譲受時に検討した事業計画において想定した利益が見込めなくなったことにより、2014年3月31日に終了した連結会計年度において、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（2,501百万円）として特別損失に計上しました。なお、回収可能価額を使用価値により算定しており、将来キャッシュ・フロー見込額が不透明となったため、その対象部分の無形固定資産残高の全額を減損処理しています。

15. その他の包括利益

2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度のその他の包括利益の内訳は下記の通りです。

	百万円	
	2015	2014
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	¥ 38,538	¥ 1,302
組替調整額	(5,084)	(24)
税効果調整前	33,453	1,277
税効果額	(9,660)	(323)
その他有価証券評価差額金	¥ 23,793	¥ 954
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	26	(40)
為替換算調整勘定		
当期発生額	10,842	14,389
退職給付に係る調整額		
当期発生額	2,042	—
組替調整額	(506)	—
税効果調整前	1,536	—
税効果額	(140)	—
退職給付に係る調整額	1,395	—
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	1,329	277
組替調整額	—	(5)
持分法適用会社に対する持分相当額	1,241	272
その他の包括利益合計	¥ 37,299	¥ 15,576

16. 連結キャッシュ・フロー計算書の追加情報

2015年及び2014年3月31日現在の、連結キャッシュ・フロー計算書上の現金及び現金同等物と連結貸借対照表上の現金及び預金との関係は下記の通りです。

	百万円	
	2015	2014
現金及び預金	¥ 87,169	¥107,673
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	(24,389)	(56,425)
合計	¥62,780	¥51,248

2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度において新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の金額は、それぞれ4,287百万円及び4,767百万円です。

17. 関連当事者との取引

2015年3月31日に終了した連結会計年度における関連当事者との主な取引の概要は下記の通りです。

2015

氏名	役職	取引の内容	百万円
藤井 重樹	当社執行役員	住宅の改装	¥19

住宅の販売については、一般の取引条件と同様に決定しています。

2014年3月31日現在及び2014年3月31日に終了した連結会計年度につきましては、開示すべき関連当事者との取引はありません。

18. 金融商品

概要

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入及び社債（短期社債を含む）による方針です。デリバティブは、商品売買、サービス提供等の商取引における為替相場の変動リスクを管理すること、また借入金の金利変動リスクを回避することを目的として利用し、投機的な取引は行いません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。また、海外の顧客と取引を行うにあたり生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されています。

投資有価証券である株式は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されています。

営業債務である支払手形、買掛金及び電子記録債務は、そのほとんどが1年以内の支払期日です。また、一部外貨建てのものについては為替の変動リスクに晒されています。

借入金及び社債のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達です。長期借入金及び社債は主に設備投資に係る資金調達であり、償還日は最長で決算日後9年です。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されていますが、このうち長期のものについては、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、デリバティブ取引（金利スワップ取引）をヘッジ手段として利用しています。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社グループの与信管理方針に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を定期的に把握する体制としています。

デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っています。

② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券である株式は、定期的に時価を把握し、取締役会へ報告しています。

デリバティブ取引の執行・管理については、内規である「金融商品の市場リスク管理規則」に基づき、

経理担当部署にてヘッジの有効性を確認した後、想定元本、予約金額に応じた決裁権者による決裁により行っています。

- ③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理
当社グループでは、各社が月次に資金計画を作成するなどの方法により管理しています。

- (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明
デリバティブ取引につきましては、「19. デリバティブ取引」注記を参照下さい。

金融商品の公正価値

2015年及び2014年3月31日現在の連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、下記の通りです。なお、時価を把握することが極めて困難であると認められるものは、次表に含まれていません（注2）参照。

	百万円		
	2015		
	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
現金及び預金	¥ 87,169	¥ 87,169	¥ —
受取手形及び売掛金	186,379	186,379	—
有価証券及び投資有価証券	161,899	159,932	(1,967)
資産計	¥ 435,449	¥ 433,481	¥ (1,967)
支払手形、買掛金及び電子記録 債務	¥ (135,972)	¥ (135,972)	¥ —
短期借入金	(18,422)	(18,422)	—
長期借入金	(24,519)	(24,556)	36
社債（1年内償還予定を含む）	(10,000)	(10,053)	53
負債計	¥ (188,914)	¥ (189,004)	¥ 89
ヘッジ会計が適用されていな いデリバティブ取引	¥ (489)	¥ (489)	¥ —
ヘッジ会計が適用されている デリバティブ取引	33	33	—
デリバティブ取引計	¥ (455)	¥ (455)	¥ —

	百万円		
	2014		
	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
現金及び預金	¥ 107,673	¥ 107,673	¥ —
受取手形及び売掛金	192,234	192,234	—
有価証券及び投資有価証券	136,428	131,235	(5,192)
資産計	¥ 436,336	¥ 431,144	¥ (5,192)
支払手形、買掛金及び電子記録 債務	¥ (148,835)	¥ (148,835)	¥ —
短期借入金	(23,242)	(23,242)	—
長期借入金	(41,363)	(41,441)	78
社債（1年内償還予定を含む）	(20,000)	(20,081)	81
負債計	¥ (233,441)	¥ (233,600)	¥ 159
ヘッジ会計が適用されていな いデリバティブ取引	¥ (74)	¥ (74)	¥ —
ヘッジ会計が適用されている デリバティブ取引	7	7	—
デリバティブ取引計	¥ (67)	¥ (67)	¥ —

(注1) 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

現金及び預金、並びに受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によって、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっています。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「4. 有価証券」注記を参照下さい。

負債

支払手形、買掛金及び電子記録債務、並びに短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

長期借入金（1年内返済予定を含む）

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の残存期間の借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっています。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象として、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の残存期間の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算定する方法によっています。

社債（1年内償還予定を含む）

当社の発行する社債の時価は、市場価格によっています。

(注2) 時価を把握することが極めて困難であると認められる金融商品

	百万円	
	2015	2014
非上場株式	¥20,161	¥15,296

これらについては市場価額がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上記の表には含めていません。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	百万円			
	2015			
	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	¥ 87,169	¥ —	¥ —	¥ —
受取手形及び売掛金	186,379	—	—	—
有価証券及び投資有価証券 満期保有目的の債権 (その他)	0	10	—	—
合計	¥ 273,550	¥ 10	¥ —	¥ —

	百万円			
	2014			
	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	¥ 107,673	¥ —	¥ —	¥ —
受取手形及び売掛金	192,234	—	—	—
有価証券及び投資有価証券 満期保有目的の債権 (その他)	0	9	—	—
合計	¥ 299,908	¥ 9	¥ —	¥ —

(注4) 社債及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額
「6. 短期借入金、社債及び長期借入金」注記を参照下さい。

19. デリバティブ取引

当社及び一部の連結子会社は為替予約取引契約及び金利・スワップ取引契約に関する市場リスクに晒されています。また、当社及び一部の連結子会社は為替予約取引契約及び金利・スワップ契約の取引相手が契約不履行になる信用リスクにも晒されていますが、取引相手は格付けの高い金融機関であるため契約不履行はほとんどないと判断しています。

2015年及び2014年3月31日現在のデリバティブ取引に関する契約額及び見積時価は下記の通りです。

(1) ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(a) 通貨関連

	百万円					
	2015			2014		
	契約額	時価	未実現 評価損益	契約額	時価	未実現 評価損益
市場取引以外の取引						
為替予約取引：						
買建：米ドル	¥ 130	¥ (8)	¥ (8)	¥ 152	¥ (2)	¥ (2)
買建：タイバーツ	310	(3)	(3)	—	—	—
通貨・金利スワップ取引：						
米ドル・日本円 受取固定・支払固定	7,685	(966)	(966)	7,271	(52)	(52)
シンガポールドル・日本円 受取固定・支払固定	449	(30)	(30)	432	(19)	(19)
ユーロ・日本円 受取固定・支払固定	6,670	660	660	—	—	—
中国元・日本円 受取固定・支払固定	410	(89)	(89)	—	—	—
タイバーツ・日本円 受取固定・支払固定	377	(52)	(52)	—	—	—
合計	¥ 16,034	¥ (489)	¥ (489)	¥ 7,856	¥ (74)	¥ (74)

2015年及び2014年3月31日現在、契約額（米ドル・日本円）のうち、1年超は3,457百万円です。

(2) ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(a) 通貨関連

	百万円		
	2015		
	主な ヘッジ対象	契約額	時価
為替予約取引：			
買建：米ドル	買掛金	¥1,913	¥33
買建：ユーロ		19	0
		¥1,932	¥33

	百万円		
	2014		
	主な ヘッジ対象	契約額	時価
為替予約取引：			
買建：米ドル	買掛金	¥808	¥7
買建：ユーロ		1	0
		¥810	¥7

2015年及び2014年3月31日現在、契約額（買建：米ドル・ユーロ）のうち、1年超のものはありません。

(b) 金利関連

	百万円		
	2015		
	主な ヘッジ対象	契約額	時価
金利スワップ取引：			
受取変動・支払固定	長期借入金	¥3,325	(*)
合計		¥3,325	

	百万円		
	2014		
	主な ヘッジ対象	契約額	時価
金利スワップ取引：			
受取変動・支払固定	長期借入金	¥7,200	(*)
合計		¥7,200	

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しています。

2015年及び2014年3月31日現在、契約額のうち、1年超はそれぞれ2,325百万円及び3,325百万円です。

20. 1株当たり金額

	円	
	2015	2014
純利益：		
潜在株式調整前	¥ 104.73	¥ 80.13
潜在株式調整後	104.55	79.94
現金配当金	27.00	23.00
純資産	1,033.49	897.18

「3. 会計方針の変更」に記載の通り、当社は退職給付会計基準を適用し、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っています。この結果、当連結会計年度末の1株当たり純資産額が、4円78銭減少しています。

潜在株式調整前1株当たり純利益は、各期の普通株主に帰属する純利益、及び各期における発行済普通株式（市場に流通している）の加重平均普通株式数を基礎として計算されています。潜在株式調整後1株当たり利益は、各期の普通株主に帰属する純利益、及び希薄化効果を有する会社により発行された新株予約権の行使に係る潜在株式の影響を考慮した後の各期における普通株式の加重平均普通株式数を基礎として算定されています。1株当たり純資産は、各年度末における普通株主に帰属する純資産及び発行済普通株式数（市場に流通している）を基礎として算定されています。

1株当たり現金配当金は、中間配当金と合わせ、各会計年度に関して取締役会において提案された配当金を示しています。

21. セグメント情報

(1) 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社は、製造方法・製品及び販売経路等の類似性によって事業を「住宅事業」、「環境・ライフライン事業」、「高機能プラスチック事業」の3事業に区分し、報告セグメントとしています。各事業は、取り扱う製品について国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しています。

「住宅事業」は、ユニット住宅の製造、施工、販売、リフォーム等を行っています。

「環境・ライフライン」は、合わせガラス用中間膜、発泡ポリオレフィン、テープ、液晶用微粒子・感光性材料、検査薬等の製造、販売を行っています。

(2) 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「2. 重要な会計方針の概要」における記載と概ね同一です。報告セグメントの利益（損失）は、営業利益ベースの数値です。セグメント間の内部売上高及び振替高は市場実勢価格に基づいています。

「3. 会計方針の変更」に記載の通り、従来、当社および国内連結子会社は、建物（建物附属設備を除く）以外のその他の有形固定資産（リース資産を除く）については主として定率法を採用していましたが、当連結会計年度より定額法に変更しました。この変更により、従来の方法に比べて、当連結会計年度のセグメント利益が、住宅が663百万円、環境・ライフラインが1,179百万円、高機能プラスチックが2,397百万円、その他が506百万円増加しています。

(3) 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度の事業別セグメント情報は下記の通りです。

百万円						
2015						
報告セグメント						
	住宅	環境・ライフライン	高機能プラスチック	計	その他(注1)	計
売上高：						
外部顧客への売上高	¥ 494,037	¥ 215,070	¥ 365,662	¥1,074,770	¥ 37,977	¥1,112,748
セグメント間の内部売上高又は振替高	78	12,619	6,633	19,331	928	20,260
計	494,116	227,689	372,296	1,094,102	38,906	1,133,008
セグメント利益(損失)	¥ 41,327	¥ 1,264	¥ 45,951	¥ 88,543	¥ (1,957)	¥ 86,585
セグメント資産	¥ 249,066	¥ 198,848	¥ 357,697	¥ 805,612	¥ 37,893	¥ 843,506
その他の項目：						
減価償却費(注2)	6,698	6,188	16,562	29,449	1,108	30,558
持分法適用会社への投資額	7,950	—	—	7,950	—	7,950
有形固定資産及び無形固定資産の増加額(注2)	9,765	15,368	17,923	43,057	2,507	45,564

	百万円					
	2014					
	報告セグメント					
	住宅	環境・ライフ ライン	高機能プラス チックス	計	その他 (注1)	計
売上高：						
外部顧客への売上高	¥ 496,679	¥ 226,933	¥ 347,085	¥1,070,697	¥ 40,153	¥1,110,851
セグメント間の内部 売上高又は振替高	111	13,008	6,696	19,816	3,646	23,462
計	496,790	239,941	353,782	1,090,514	43,799	1,134,313
セグメント利益 (損失)	¥ 41,108	¥ 6,460	¥ 36,098	¥ 83,668	¥ (778)	¥ 82,889
セグメント資産	¥ 256,121	¥ 200,277	¥ 341,171	¥ 797,569	¥ 40,940	¥ 838,510
その他の項目：						
減価償却費(注2)	7,722	6,083	18,405	32,210	1,534	33,745
持分法適用会社への 投資額	7,385	—	—	7,385	—	7,385
有形固定資産及び無 形固定資産の増加 額(注2)	11,142	10,473	17,645	39,262	1,468	40,730

(注1) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、サービスの提供、フラットパネルディスプレイ製造装置、農業・建設用資材等の製造、販売を行っています。

(注2) 減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額には長期前払費用と同費用に係る償却額が含まれています。

(4) 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）
2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度の売上高と利益は下記の通りです。

	百万円	
	2015	2014
売上高：		
報告セグメント計	¥ 1,094,102	¥ 1,090,514
「その他」の区分の売上高	38,906	43,799
セグメント間取引消去	(20,260)	(23,462)
連結損益計算書の売上高	¥ 1,112,748	¥ 1,110,851

	百万円	
	2015	2014
利益：		
報告セグメント計	¥ 88,543	¥ 83,668
「その他」の区分の利益	(1,957)	(778)
セグメント間取引消去	319	1,103
全社費用(注)	(1,141)	(1,451)
連結損益計算書の営業利益	¥ 85,764	¥ 82,541

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度の資産は下記の通りです。

	百万円	
	2015	2014
資産：		
報告セグメント計	¥ 805,612	¥ 797,569
「その他」の区分の資産	37,893	40,940
セグメント間取引消去	(283,044)	(111,138)
全社資産(注)	407,550	233,637
連結貸借対照表の資産合計	¥ 968,011	¥ 961,009

(注) 全社資産は、報告セグメントに属しない資産です。主なものは、親会社での現金及び預金、長期投資資金（投資有価証券）、管理部門に係る資産及び繰延税金資産等です。

2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度のその他の項目は下記の通りです。

	百万円			
	2015			
	報告セグメント計	その他	調整額(注)	連結財務諸表計上額
その他の項目：				
減価償却費	¥ 29,449	¥ 1,108	¥ 645	¥ 31,203
持分法適用会社への投資額	7,950	—	27,860	35,811
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	43,057	2,507	1,428	46,993

	百万円			
	2014			
	報告セグメント計	その他	調整額(注)	連結財務諸表計上額
その他の項目：				
減価償却費	¥ 32,210	¥ 1,534	¥ 631	¥ 34,376
持分法適用会社への投資額	7,385	—	25,614	33,000
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	39,262	1,468	1,097	41,827

(注) 持分法適用会社への投資額の調整額は、報告セグメントに属しない持分法適用会社への投資額です。

(5) 関連情報

(a) 地域ごとの売上高

2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度の売上高は下記の通りです。

	百万円					
	2015					
	日本	米国	欧州	アジア	その他	計
売上高	¥ 835,540	¥ 84,733	¥ 64,287	¥ 118,240	¥ 9,947	¥ 1,112,748

	百万円					
	2014					
	日本	米国	欧州	アジア	その他	計
売上高	¥ 851,377	¥ 77,959	¥ 67,006	¥ 104,264	¥ 10,242	¥ 1,110,851

(b) 地域ごとの有形固定資産

2015年及び2014年3月31日現在の有形固定資産は下記の通りです。

	百万円					
	2015					
	日本	米国	欧州	アジア	その他	計
有形固定資産	¥ 185,086	¥ 22,344	¥ 20,589	¥ 33,768	¥ 2,068	¥ 263,857

	百万円					
	2014					
	日本	米国	欧州	アジア	その他	計
有形固定資産	¥ 176,842	¥ 19,231	¥ 24,045	¥ 29,859	¥ 2,073	¥ 252,051

(6) 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度の固定資産の減損損失は下記の通りです。

	百万円					
	2015					
	住宅	環境・ライフ ライン	高機能プラス チェックス	その他	全社・消去	計
減損損失	¥ 149	¥ 1,858	¥ 5,092	¥ 22	¥ —	¥ 7,123

	百万円					
	2014					
	住宅	環境・ライフ ライン	高機能プラス チェックス	その他	全社・消去	計
減損損失	¥ 434	¥ 1,370	¥ 7,837	¥ —	¥ —	¥ 9,642

(7) 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

2015年及び2014年3月31日に終了した連結会計年度ののれんの償却額及び未償却残高は下記の通りです。

	百万円					
	2015					
	住宅	環境・ライフ ライン	高機能プラス チェックス	その他	全社・消去	計
当期償却額	¥ —	¥ 337	¥ 2,011	¥ —	¥ —	¥ 2,348
当期末残高	—	1,034	9,753	—	—	10,787

	百万円					
	2014					
	住宅	環境・ライフ ライン	高機能プラス チェックス	その他	全社・消去	計
当期償却額	¥ —	¥ 321	¥ 2,636	¥ (0)	¥ —	¥ 2,957
当期末残高	—	1,338	11,555	—	—	12,893

22. 重要な後発事象

(期末配当)

基準日が2015年3月31日に終了した連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が2016年3月31日に終了する会計年度となるもの

2015年5月14日に開催の取締役会で次のとおり提案され、2015年6月25日に開催の株主総会において決議されました。

配当金の総額	6,998百万円
基準日	2015年3月31日
1株当たり配当額	14.00円

(自己株式の取得)

当社は、柔軟な資本政策の実施のため及び株主への還元の一環として、2015年4月28日開催の取締役会で、2015年4月30日から2016年3月31日までの期間において総額20,000百万円を上限として自社株式12百万株を市場買付により取得することを決議しました。

独立監査人の監査報告書（訳文）

積水化学工業株式会社

取締役会御中

私どもは、積水化学工業株式会社及び連結子会社の2015年3月31日現在の連結貸借対照表、2015年3月31日に終了した連結会計年度の連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、並びに重要な会計方針、その他の注記及び付属明細表について監査を実施した。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、日本において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽の表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私どもの責任は、監査に基づいてこれらの連結財務諸表に対する意見を表明することである。私どもは、日本で一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。これらの監査の基準は、私どもに連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、計画に基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続きが実施される。監査手続きは、監査人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽の表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私どもは、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続きを立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め、連結財務諸表全体としての表示を検討することを含んでいる。私どもは、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私どもの意見によれば、上記の連結財務諸表は、日本において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、積水化学工業株式会社及び連結子会社の2015年3月31日現在の財政状態並びに2015年3月31日に終了した各連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示している。

強調事項

連結財務諸表注記3に記載されているとおり、会社及び国内連結子会社は、2015年度3月31日に終了した連結会計報告年度より、有形固定資産の減価償却方法を定率法から定額法に変更した。従来より会社及び国内連結子会社は主に定率法により計上していた。当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

Ernst&Young, Shin Nihon

大阪、日本

2015年6月12日

(注) この独立監査人の監査報告書は、英文連結財務諸表に対して受領したReport of Independent Auditorsを当社により翻訳したものである。